

平成 2 1 年 1 月

[配布先：全組合員]

市場情報

<各地区市場動向>

北海道

突然の破たん

平成 2 1 年の北海道地区鉄鋼業界新年賀詞交換会は 1 月 7 日に開催された。年末年始、懸念された事態が身近なところで何事も起こらず良かったと、ホッと安堵しながら和やかに新年の挨拶を交わしていた。そのほぼ同時刻、道内の建築鉄骨では最も老舗で名門企業の一つであった、全構協Hグレ - ドファブが自己破産申請した。同社は、大手ゼネコンの主力ファブで、受注量も好調で、今年の夏まで例年を大幅に上回る山積みになっており、突然の破綻は業界に大きな影響が出るのが懸念されている。

北海道内鉄骨需要は、道央圏の大型物件に加え、首都圏の大型物件の受注により大手ファブは上期までは工場が埋まっており、シヤ-各社とも切板加工数量、稼働率にバラツキはあるものの、比較的安定操業が続くが、これからは、今迄以上に与信管理が求められる。

(玉造・西村卓也)

東 北

見直し、延期、中止

東北地方の年末は各地とも積雪が少なく今のところは助かっています。

先月も報告しました様に、1 1 月には東芝北上の工事延期の発表がありましたが、その後も東京エレクトロンをはじめとして次々と大型物件の工事の見直し、延期、中止が発表され、東北地方に暗い影を落とし始めています。

年末の挨拶廻りでは、相変わらず地場物件は少なく、首都物件に頼らざるを得ない状況であり、山積み状況はHクラス以上では5月から6月頃まで埋まり始めている様ですが、Mクラス以下では2月頃までしか埋まらず二極化現象が続いています。これからの先安感からか施主、ゼネコンも物件を発注するタイミングを見ている様で、新規発注はなかなか出て来ないようです。

高炉材の引き受けは緩和されて来ており、今後の母材価格の動向が気に掛かる所です。

新年度は耐え忍ぶ年になりそうですが、一日でも早く世界経済の立ち直りを願うばかりです。

(J F E 鋼材・湊和志)

東 京

変

08年の世相を表す漢字は「変」と書かれました。

まさに、気候、食の安全性、ガソリンを初めとする物価高、政局不安、そして極めつけは、サブプライムローンに端を発した金融情勢の変化と、円高、あまりにも多業種にわたり不況の波を及ぼしました。全て、方向性が悪くまた、浸透度合いの速い変化の年であり、まるでゆとりのない様な1年であった。

シヤ-業界も母材値上げに始まり、ロールの確保難、コンプライアンス問題、スクラップ価格の乱高下、そしてメーカー減産と取り巻く環境の変化に大きく影響を及ぼした歩損。シヤ-業の永遠のテーマである歩損の対応に追われる年でした。

建材メーカーシヤ-は、上期橋梁、下期は首都圏の大型鉄骨物件中心の生産でしたが、下期は生産の量は確保出来ても利益が上がらず、大きく収益を阻害する状態での越年となりました。

09年は景気低迷が続き、予定されていた設備投資の見直し・中止と不安材料の多い中、年度予算作成を控え、尚一層の工夫を凝らした活動を余儀なくされる年と覚悟せざるを得ません。

期待感の良い方向への「CHANGE」です。

(J F E 鋼材・清水幸雄)

東 京

今こそユーザ - に貢献する努力を

明治維新から140年の時を経て今、平成維新の幕開けを迎えようとしています。100年に一度と言われるこの恐慌下、原点に戻って足元をじっくり見つめ直す絶好のチャンスかも知れません。

如何なる環境になろうとも、メーカ - 系シヤ - は高炉の支援を得ながら、常にユーザ - に対して役に立つ存在であり続けなければなりません。

その為には、その時点時点で要求される機能を充分果たしているか、ユーザ - から評価され重宝がられる存在であるかをきっちり見極め、拡充していく努力を重ねていく必要があると思われま

す。つい最近まで材料入手難によって苦しんでいましたが、環境の変化によって今後は国内向け、とりわけ建材分野にも材料が回ってくる可能性が出てきたことを素直に喜んでいます。

もう一つの悩みである材料価格の高騰に伴う歩損増大で、加工費が圧迫されている状況に関しては、改善に向けて高炉の理解を得やすい環境になったとも言えます。

何とかこの時期、チャンスと見る部分を無理やりにでも探して、ユーザ - に貢献する役割を果たしていきたいと思っています。

(山惣熔断・根本泰伸)

東 海

変革の年

一年の締めくくりの12月になりましたが、激動の一年を振り返るほどの精神的な余裕もなく、来年に起きるであろう現実を思うと、このまま新しい年が来なければよいのにと、真剣に考えてしまいます。来年早々には、私たちシヤリング屋にとって、第一に仕入サイドのメーカ - 価格の動向、第二に需要家の仕事量と販売価格の動向、どちらも会社経営に重大なるインパクトを与えかねない大問題であります。予測ではなく確実に起きるであろう衝撃、廃業や倒産や合併といった、今までにな

い変革の時が来たのかなと、覚悟して新年を迎えようと思います。

(明和鋼業・大畑光生)